

子宮がん検診（車検診）

動 向

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村からの委託事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。検診は県下の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院の産婦人科の医師が担当し、この5大学と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」で、精度管理・向上に努めている。

細胞診判定法が平成21年度よりベセスダシステム準拠日産婦科医会分類に改定された。採取器具も平成23年4月より綿棒からCervex-Brush Combiに変更した。

子宮頸がん検診結果

検診実施数は23,669名で、ここ数年一進一退しながらほぼ安定している。年齢階級別では、やはり60歳代が最も多く、次いで40歳代、30歳代と50歳代の順で、従来とほとんど変わらない。期待された30歳未満の受診者は昨年より少し少ない767名、3.2%だった。40歳未満では18.0%である。一方、初診者（初めての検診受診者、6,830名）は28.9%を占め、昨年の31.9%を下回った。うち若年者の割合は30歳未満8.5%、30歳代35.3%で、昨年より少し増えた。

要再検・精検率では、細胞診LSIL以上（旧分類クラスIIIa以上）の要精検者は0.46%（110名）、ASC-US（クラスII再検）などによる要再検者は0.94%（223名）だった。昨年ではそれぞれ0.58%、0.87%だった。両者合わせた要再検・精検率は1.41%で、昨年の1.44%と同水準だった。再・精検の実施率は平成24年8月末の集計時点で82.28%、うち精検者82.73%、再検者82.06%だった。高い水準ながら、例年よりやや下回った。

要再検・精検者の再検・精検結果は表4-6の如くである。発見癌のうち頸癌は17例（上皮内癌12例、Ia期2例、腺癌3例）で、早期癌の頻度は82.4%で、昨年の60%より高かった。頸癌発見率は0.07%と例年の0.08%をやや下回った。初診者からの頸がん発見率は0.15%と高く、一方、再診者（検診受診経験者）のそれは0.04%と低かった。頸癌のうち0期、Ia期と腺癌各1例が要再検群から発見されている。年齢階級別では30歳未満から0期が1例発見されている。初診者での癌発見率では、最も高い発見率が近年では40歳代から30歳代に若年化し0.27%と高かった。初診者の多い30-49歳の若年者で高い頸がん発見率であることには変わらない。再診者

の中では、40歳代に0.14%と高い結果だった。

発見された異形成は91例（軽度53例、中等度27例、高度11例）である。異形成発見率は0.38%で、昨年の0.41%より低かった。初診者の、異形成の発見率は0.82%と一層高く、年齢階級別では30歳未満2.58%、30歳代1.04%、40歳代0.96%を示し、若年初診者に高かった。しかし、60歳代でも0.26%を示していた。再診者からも、異形成は0.21%の高頻度で発見され、とりわけ20歳代と30歳代では共に0.54%、40歳代では0.24%と高い頻度だった。さらに年長者でも0.1%以上の頻度で発見されている。繰り返し受診者であっても異形成の発見頻度は低いことを銘記していきたい。

細胞診判定ASC-USのため要再検となった者202名から、0期が2例（発見率1%）、異形成が35例（17.3%）（軽度27例、中等度6例、高度2例）が発見されている。

本年度は子宮頸癌以外の癌は発見されなかった。

評 価

以上、本年度に実施された検診は、適正に処理される実績を示した。

若年者の受診は予想に反して微増に止まっており、30歳未満では3.2%、40歳未満でも18.0%であった。20、30歳代の若年者では異形成や頸癌の発見率が高いところから、若年者の子宮がん検診受診が一層勧奨される。

子宮頸癌ならびに異形成の発見率は初診者に高いことはこれまでの統計通りであり、未受診者への受診勧奨に一層努めたい。一方、再診者での癌発見率は著しく低下するものの、異形成の発見率は0.21%と高率を示していることから、再診者へも定期的な検診受診の継続が勧奨される。

3年前から開始された子宮がん検診無料クーポン券は、若年者での検診受診の掘り起こしと高い頻度の癌や異形成の発見に貢献していた。本年度も配布されたが、継続性に期待される。

改訂された細胞診報告様式であるベセスダシステム準拠の日本産婦人科医会分類は順調に普及しているが、ASC-USなど新しい基準により要再検の頻度が上昇している。今後の検証が必要であろう。

近年、液状処理法（LBC）が細胞診断の精度向上と省力化に有用と期待されている。本車検診でも本法の導入が検討課題であろう。

関係の集計表は92頁に掲載